

「春を待つ2月に、心を整える」
～小さな“心の鬼”と向き合う子どもたちをそっと支えて～

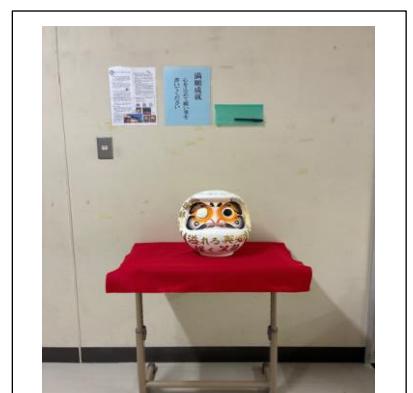
校長 森角 由希子

2月は、目には見えない変化が静かに積み重なる季節です。校内では、3年生が受験に向けて、日々こつこつと努力を続けています。放課後の教室で机に向かう姿や、友だち同士で励まし合う声が、自然と1・2年生の心にも届いているようです。3年生のひたむきな姿は、後輩たちにそっと勇気を渡し、「自分も何か一步踏み出してみたい」という気持ちを静かに育てています。こうした温かな循環が、学校全体にやさしい風を運んでくれているように感じます。

2月は節分の季節でもあります。「鬼は外、福は内」と豆をまく風習には、悪いものを追い払い、良いものを呼び込む願いが込められていますが、私たちの心の中にも、時折小さな“鬼”が顔を出します。「怒り」「焦り」「不安」——受験を控える3年生だけでなく、どの学年の生徒にも、ふつと湧き上がる瞬間があります。思春期の子どもたちは、言葉にしづらい気持ちを胸の奥にしまい込んでしまうこともあり、保護者の皆さんも、そっと気にかけておられるのではないでしょうか。

心の鬼は、豆を投げて追い払うわけにはいきませんが、日々の小さな行動が、その力をやわらげてくれます。深呼吸をして気持ちを整えること。友だちに優しい言葉をかけること。自分の頑張りを静かに認めてあげること。そして、誰かの努力を素直に応援すること。こうした一つひとつ行動が、心の鬼をそっと遠ざけ、福を呼び込むきっかけになります。3年生の姿に触れ、1・2年生が前向きな行動を選び始めているのも、そのあたたかな連鎖のひとつです。

私たち教職員も、生徒一人ひとりが抱える小さな不安や迷いに寄り添い、安心して学校生活を送れるよう、日々心を配っています。保護者の皆さんにも、お子さまのちょっとした変化に気付き、そっと背中を押していただければ心強く思います。節分を迎えるこの時期、生徒たちが自分の心と向き合い、前向きな一步を踏み出せるよう、学校と家庭があたたかくつながりながら支えていきたいと願っています。



【校長室前にある祈願だるま】
生徒たちが、願いを書き込んでいます。